

# 博士論文要旨

## 医薬品産業におけるグローバル統合とローカル適合に関する 研究—持続的成長の観点から—

立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科

テクノロジー・マネジメント専攻博士課程後期課程

テラマエ フミオ

寺前 文雄

製薬企業は、研究開発費の増加や研究開発の成功確率の低下などによってビジネスサイクルを維持することが難しくなっているとわれ、解決策のひとつとして本社のある地域からそれ以外の地域へと市場を拡大する国際展開を進めている。複数の地域を取り扱う国際経営の根源的な問いである多様性の取り扱いについて、グローバル統合およびローカル適合という視点で理論的な研究が進んでいる一方で、実証的な研究はあまり進んでおらず、とくに医薬品産業に着目した研究は多くない。そこで、どのような国際展開が製薬企業の持続的成長にとって望ましいのか、国際展開を進める製薬企業にとってどのような研究開発イノベーション活動が望ましいのかという問いについての示唆を得ることを本研究の目的とした。方法として、大手製薬企業を対象に国際展開戦略および研究開発イノベーション戦略と持続的成長に関する定量分析ならびに製薬企業の成長を支える大型医薬品のライフサイクルの特徴などの定量分析を行った。国際展開戦略については、世界の主要地域での売上高を重視する Global 戦略を採用する傾向にあるが、ホーム地域での売上高を重視する Home-region-oriented 戦略のほうが持続的成長に貢献することが明らかになった。研究開発イノベーション戦略については、Home-region-oriented 戦略を採用する企業の戦略的取引は総売上高の増加に貢献していないことが明らかになった。その理由として、ホーム地域バイアスによって適切な戦略的取引が実践できていないことが示唆された。また、Global 戦略と Home-region-oriented 戦略の治療領域の選択に違いがあることを発見した。さらに、大型医薬品の多くは Home-region-oriented 戦略であることが示唆され、治療領域によって医薬品のライフサイクルパターンが異なることを明らかにした。以上のことから、商業的成功のための戦略としてグローバル統合を選択する流れが医薬品産業にみられるが、ローカル適合によって商業的成功がもたらされると考えた。ローカル適合の実践においても、医薬品の価値が経済的に評価されるためには、サイエンス・イノベーションが強く求められることから、戦略的取引においてはローカル適合の影響（ホーム地域バイアス）に留意し、グローバルにイノベーションを探索する必要があると考えた。